

ファイナル風

(現場)からの風

宮田守男

6月初旬、松本・ホテルブエナビスタで開催された松本信用金庫春季講演会・元谷美生子さんの「私が社長です」を聴講する。自らを広告塔として、派手

な帽子とミニスカートスーツを正装にメディアへの大露出で有名なアパホテル社長、今回の講演も赤一色の正装で70歳を超しているとは感じられないパワーに会場が圧倒されてしまう。ウィキペディアによると、アパホテルは、今年2月現在建築も含め、440ホテル、7万4023室。全体売上350億円、総資産は1兆円を超え、収益率は30.2%の日本最大のホテルグループだ。

しかし社長の経歴は順風の人生では無かった。出生時は、葬儀の話も出るほど虚弱、1歳の時には福井地震で生家が倒壊、観音開きで倒れてきた仏壇に守られた経験を持ち、学校教員を夢見たが、父親が病に。大学進学を諦めて地元の福井信用金庫に入庫の波乱な人生。しかし北陸に拠点

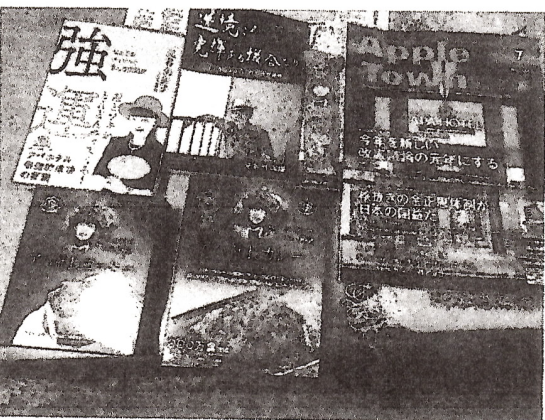
を置く金融機関の労働組合の会合で、小松信用金庫に勤務していた元谷外志雄さんと知り合い結婚、夫の起業した会社で第二の人生をスタート。だが耐震偽装問題で、銀行から借入金300億円の返済

を望む。資産処分して、逆に現金資産が潤沢に残り、翌年のリーマンショックで大暴落した東京都心の土地70カ所を取得し、大躍進への凄まじい社歴の話で盛り上がる。

逆境・失敗・誹謗中傷を逆転発想で生き抜くたくましさを身に付けよう

話の内容は、ピンチをチャンスと捉える技術の伝授だった。「どんな出来事もプラスに考える事」「人への感謝の気持ちを忘れない事」。幸福を運ぶ習慣を大切に、「自分をラッキーだと思う」「人

のいいところだけ見る」「挨拶は、一足お先に自分から」「お願いごとは明るく真剣に」などの記述がある著書「強運」の記載内容を再度心に刻みつける。第一生命が発表した



700名の聴講者に配られたアパグループの内容を知らせる品々。絶好の機会と捉えての見事な戦略展開だ。

化に悪戦苦闘や肩身の狭さに何とも悲しさが伝わってくる。西日本新聞のコラム春秋に、昔の風景を体験した中高年の豊かな人生のたくましさで、「おじさんだの おばさんだの役に立たぬと思うべ

な」との童謡の替え歌を思い出す。今回のパワー溢れる話で、もうひと頑張りと思わせた講演でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)